

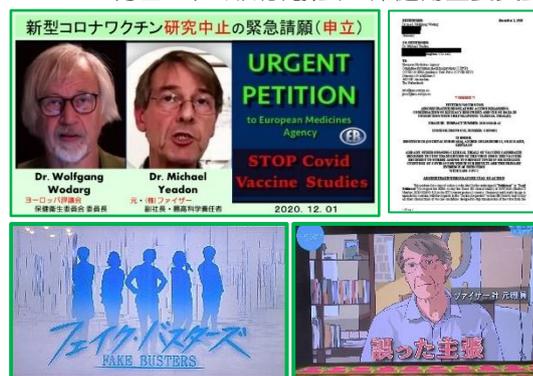
TRANSITION TO HEALTH (118)

“ 新型コロナウイルス感染 ④ ”

～ ワクチン追加接種者の近未来予測・その2 ～

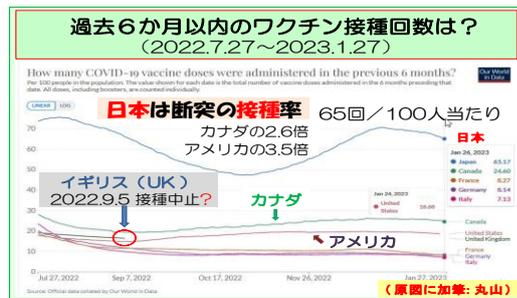
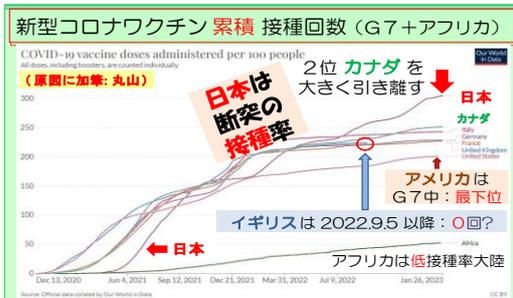
はじめに・・・ マスメディアの報道は責任重大（前号に続き再び）

2020年12月1日、元・Pfizer社の副社長兼最高科学責任者の Michael Yeadon 博士が、欧州評議会の保健衛生委員会委員長 Wodarg 博士と連名で、EU 政府の欧州医薬品庁 (EMA) に対して『全ての新型コロナワクチンの研究 (第Ⅲ相臨床試験) の中止』を要求して緊急請願・異議申し立てを行った。その8ヶ月後、NHKは2021年8月10日、特集『フェイク・バスターズ』で、Yeadon 博士を「ファイザー社元職員」としてだけ扱い、博士の発言を全否定、デマ情報を発信する中心人物と決めつけ、「政府・厚労省が発信する情報＝正しい情報」「ネット上に拡散する情報＝デマ」と報じていた。ワクチンメーカーや WHO、政府、「こびナビ」などの当時の接種推進派の情報のみを正しい情報として伝えていた公共放送 NHK の報道の在り方は責任重大である (個人的見解)。Yeadon 博士ら、ワクチン慎重派・懐疑派の科学者・研究者・医師集団・ノーベル賞受賞科学者らの警告・主張が正しかったことを、今、歴史 (2021~2022) が証明している。製薬会社、厚労省などの公衆衛生当局、WHO・CDC・FDA などの医療官僚機構という少数派 (?) の情報のみを正しい情報としてマスメディアが報じることによって、一般視聴者では、その危険な少数派専門家の情報を信じる人が多数派となり、良識あるワクチン慎重派・懐疑派という多数派専門家の警告・主張はすべてデマ扱いされ、この“コロナワクチン災禍”に繋がってしまった (個人的見解)。NHK、民放各局、出演していたコメンテーター達は、いつ国民に謝罪するのであろうか？



日本の接種回数は断トツの世界第1位

英国オクスフォード大学が公開している『Our World in Data』のデータをもとに、日本のワクチン接種率、コロナ感染



率及び死亡率について見てみよう。1月26日現在の人口100人当たりのワクチン接種回数は、日本は305.1回と突出して世界第1位である (上左図)。一人平均3回接種している。G7の累積接種回数で見ると (上中図)、日本は昨年2022年7月17日にイタリアを追い越して1位に躍り出て、今では2位のカナダを大きく引き離し断突の第1位である。アメリカはG7中最下位、イギリス (UK) は昨年2022年9月5日から接種していないのか、グラフが途切れている。次に、直近の6か月間について見ると (上右図)、イギリス (UK) が接種の推奨を止めて5か月が経過しようとしている今でも、

日本では約 65%が接種していた。G7中、2 位カナダの 2.6 倍、3 位アメリカの 3.5 倍の驚異的な接種率の高さである。

政府・厚労省は、いつまで“ワクチン災禍”を継続させるつもりなのか？

断トツの感染率・死亡率はワクチン接種が原因

『Our World in Data』をもとにコロナ感染率・死亡率を見てみよう。

右上のグラフは、その日に確定した過去1週間の人口100万人当たりの新規感染者数である。日本は昨年2022年11月から世界最高を記録し続けている。同様に人口100万人当たりの死亡者数を見ても（右下）、日本は断突の世界第1位である。ワクチンの追加接種が感染拡大をもたらし、死亡者も増加していることに疑いの余地はないと思われる（個人的見解）。

ところが、今日（1/28）もテレビではワクチン接種の必要性を愚かな医師（失礼！立派な？大学教授）が未だに訴えている。某大学の某教授などは「基礎疾患を有するハイリスクの人は、その時に打てるワクチンを打ちなさい」「ある程度の重症化予防の効果が期待できる」などと、良識あるワクチン慎重派の主張とは真逆のことをメディアで言い続けている。

米国発：ワクチンは1/874のロシアンルーレット

一昨日（1/26）、WEB公開された米国発のニュースを一つ紹介しよう（右図）。

「2023年1月24日に公開された査読済み研究によると、2021年だけで278,000人のアメリカ人がコロナワクチン接種により死亡。2021年12月末までに2億4300万人のアメリカ人が接種を受けていた。したがって、研究の評価では、ワクチン接種者874人中1人が接種によって死亡したことが示唆される。」というものである。日本人の80%がCOVIDワクチン接種者とする、1/874の確率なら、日本人11万3,500人がワクチン接種で死亡してしまうことになる。現在の超過死亡の増加を考慮すると、案外、有り得る数字なのかもしれない（個人的見解）。

ワクチン追加接種者の近未来予測、ふたたび

国・厚労省は、ワクチン接種によって接種後死亡（氷山の一角である報告事例だけでも1,960件以上）のみならず、重大な健康被害も多数起きている事実を認め、イギリスのように直ちにワクチン接種の推奨を中止し、亡くなられた方々、その遺族、健康被害を受けられた方々を救済してほしいものと願っている（個人的見解）。

ここで、前号に載せた「ワクチン複数回追加接種者の近未来」の図を再掲する。



◆ スパイク蛋白産生・・・で危惧されること

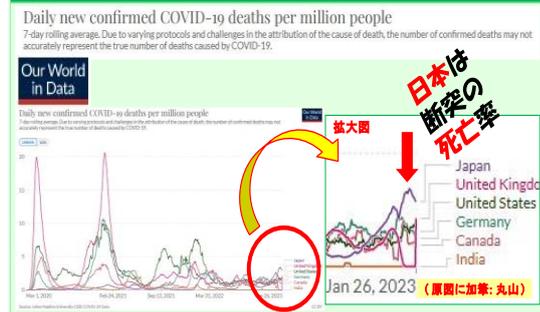
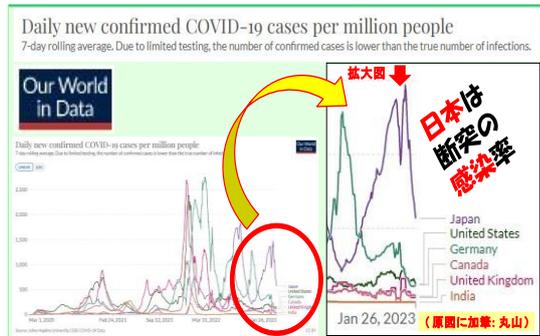
ワクチン由来のスパイク蛋白が、脳・心臓血管内皮細胞の ACE2 受容体を攻撃し、慢性炎症・血小板凝集・血栓形成をもたらす、突発性の心停止・脳卒中・意識消失発作等を起こす可能性がある。したがって、今後は突然死の原因として、真っ先に COVID ワクチンの接種歴を考慮しなければならない時代が到来してしまったと考えている（個人的見解）。さらに、COVID ワクチン追加接種が遠因となる労働災害・交通事故・飛行機事故が起る可能性があると思われる（個人的見解）。

◆ 自己免疫抑制（免疫力低下・免疫異常）

近年、带状疱疹・性行為感染症としての梅毒・エイズなどの増加が見られているが、やはり、COVID ワクチンの追加接種が影響している可能性を考慮すべきと考えます。ギランバレー症候群、自己免疫性の血小板減少症は既に学会報告されている。

おわりに・・・健康診断医・産業医として

健康診断結果の評価において、一過性あるいは原因不明の肝機能異常（AST、ALT、γ-GTの上昇）、血小板減少の原因として、COVID ワクチンの接種歴を考慮しなければならないと考えている。複数回のワクチン追加接種者に対しては、特に、がん検診の受診をお勧めしたい。



速報：研究によるとCOVIDワクチンはアメリカ人の874人に1人を殺してきた
 BREAKING: Study finds COVID Vaccines have killed 1 in every 874 Americans
 A peer-reviewed study published on 20 January 2023 estimates 278,000 Americans died in 2021, when, due to varied operations, 263 million Americans had received Covid injections by the end of Oct 2021. In the study's estimate suggests that 1 out of 874 vaccines is killed by the injections.

BREAKING NEWS
 BREAKING: Study finds COVID Vaccines have killed 1 in every 874 Americans